

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	伊江村立伊江中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	14
生徒数	75	76	79	3	233	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導方法及び指導体制の工夫改善 ～少人数授業及び選択授業を通して～

2. 研究内容与方法

- (1) 実施学年・教科.....1・2・3年生・数学(習熟度別少人数学習)
 選択した理由生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため

- (2) 年次ごとの計画

平成14年度(1年次)

テーマ・・・個に応じた指導方法及び指導体制の工夫
 (～選択教科における多様なコース設定を通して～)

- ② 研究の見通し
 ・地域人材を活用を図りながら選択幅を拡大し、多様なコース設定をすることにより個に応じたきめ細かい指導が可能になる。また、生徒の意欲・関心を刺激することにより生徒は伸び伸びと自分の個性を伸ばすことができるであろう。
 ・習熟度別授業、TT授業を実施し、工夫改善することにより、個に応じたきめ細かい指導が可能になり、生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けることができるであろう。

- ③ 研究内容(習熟度別少人数授業・選択教科における多様なコースの設定)

ねらい	研究事項
1 研究の明確化	① 研究体制の確立 ア 研究主題の設定、イ 研究体制の確立、ウ 全体構想の作成
2 研究目標の具体化	② 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発 ア 教材・提示物の作成・活用
3 実践活動の研究	③ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ア 習熟度別学習による少人数授業の実施、イ TT授業の実施の工夫改善、ウ 多様な選択授業の工夫改善、エ 研究授業の実施(数学・社会)
	④ 生徒の学力の評価を生かした指導の工夫改善 ア 教育相談での家庭との連携、イ 家庭学習への対応
	⑤ その他 ア 先進校の資料の収集、イ ホームページの開設、ウ 地域人材活用マニュアルの作成、エ 情報機器活用等の研究

平成15年度(2年次)

- ① テーマ・・・個に応じた指導方法及び指導体制の工夫改善
 (～少人数授業及び選択授業を通して～)

- ② 研究の見通し
 ・2年次も継続して習熟度別少人数授業を実施し、工夫改善することにより、個に応じたきめ細かい指導が可能になり、生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けることができるであろう。
 ・地域人材の活用を図りながら選択幅を拡大することにより個に応じたきめ細かい指導が可

能になる。また、生徒の意欲・関心を刺激することにより生徒は伸び伸びと自分の個性を伸ばすことができるであろう。

研究内容（習熟度別少人数授業・選択教科における多様なコースの設定）

1 研究の明確化	① 研究主題の変更、研究体制の変更、全体構想の確認
2 実践指導の充実	② 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発 ア 伊江中独自の補足的な問題集の作成・活用、イ 教材の提示物の作成、活用
3 実践活動の研究	③ 個に応じた指導のための指導方法及び指導体制の工夫改善 ア 習熟度別学習による少人数授業やTT授業の工夫改善 イ 多様な選択授業の工夫改善 ウ 選択授業のALTによる英会話コースの実施 エ 研究授業の実施(数学・英語・道徳) オ マスターシートの活用
	④ 生徒の学力の評価を生かした指導の工夫改善 ア マスターシートによる評価、イ 教育相談での家庭との連携
	⑤ その他 ア 先進校等の資料収集 イ ホームページの開設・更新 ウ 地域人材活用マニュアルの作成 エ 情報機器活用等の研究 オ 家庭学習への対応

平成16年度(3年次)

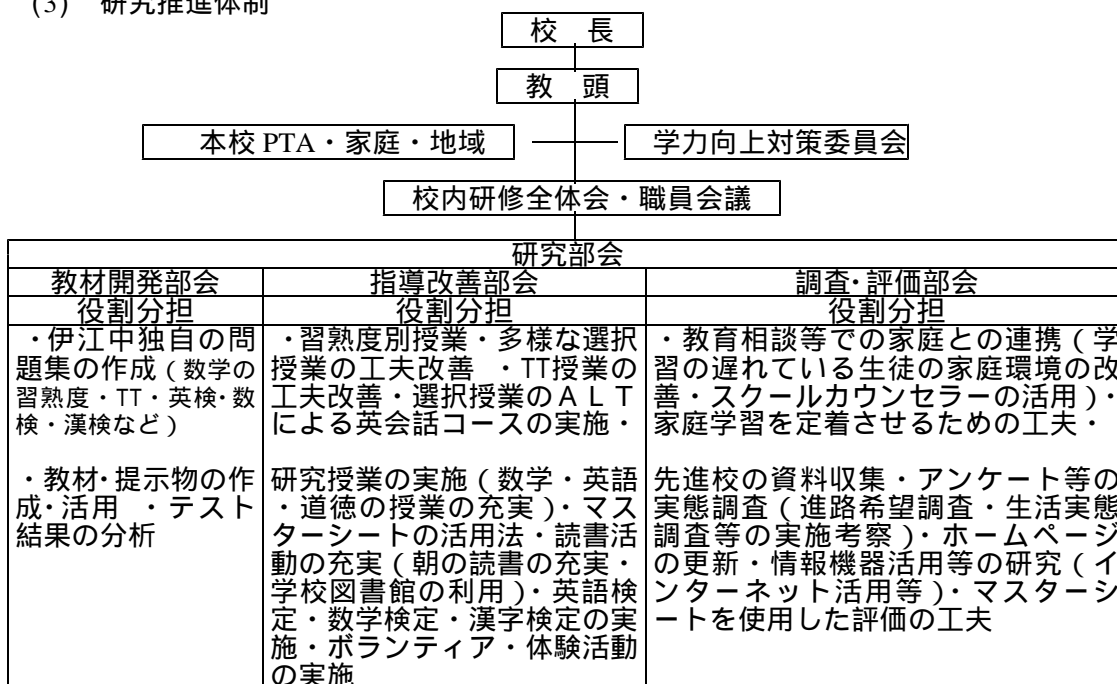
① テーマ・・・個に応じた指導方法及び指導体制の工夫改善
(～少人数授業及び選択授業を通して～)

② 研究の見通し

- ・3年次も継続して習熟度別授業を実施し、工夫改善することにより、個に応じたきめ細かい指導が可能になり、生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けることができるであろう。
- ・地域人材を活用を図りながら選択幅を拡大することにより 個に応じたきめ細かい指導が可能になる。また、生徒の意欲・関心を刺激することにより生徒は伸び伸びと自分の個性を伸ばすことができるであろう。

1 研究の明確化	① 研究主題、研究体制、全体構想の確認
2 実践指導の充実	② 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材の改良と活用 ア 伊江中独自の発展的な問題集の改良と活用、 イ 伊江中独自の補足的な問題集の改良と活用、 ウ 教材・提示物の改良と活用
3 研究のまとめ	③ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ア 習熟度別学習による少人数授業やTT授業の実践継続 イ 多様な選択授業の実践継続 ウ 選択授業のALTによる英会話コースの実践継続 エ 研究授業の実施(国語・理科・数学) オ マスターシートの活用
	④ 生徒の学力の評価を生かした指導の実践継続 ア マスターシートによる評価、イ 教育相談での家庭との連携、 ウ 家庭学習への対応
	⑤ 研究のまとめと今後の方向付け
	⑥ その他 ア 先進校等の資料の収集、イ ホームページの更新、ウ 地域人材活用マニュアルの活用、エ 情報機器活用等の研究、オ 家庭学習への対応

(3) 研究推進体制



・昨年度から改善されたところ……「ホームページ作成部会」「美ら島学習（総合学習）部会」を廃止し、新たに「教材開発部会」「指導改善部会」をつくった。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

生徒側

人数が少なくなったことで、一人あたりの発言回数が増えた。

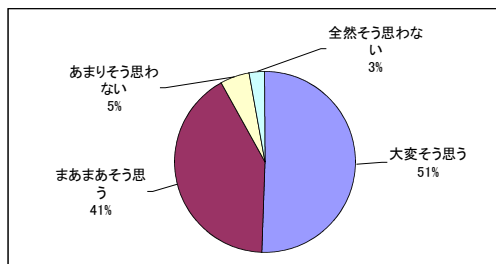
発表する機会が増え自分の考えを他の生徒に分かりやすく表現するようになった。

授業でわからなかったときは、「わかりません」とはっきり言う態度が育ってきた。

自分で問題が解けるようになり、自信がもて学ぶ楽しさを実感できるようになってきた。

習熟度別少人数クラスになって勉強がよく分かるようになったと答える生徒が増えた。

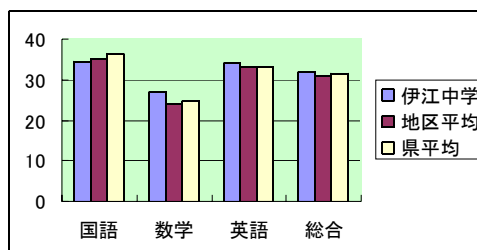
大変そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	全然そう思わない
38	31	4	2



コンピュータを使用することにより、生徒それぞれが自分のペースで楽しく学習することができた。

達成度テストで数学、英語、総合の平均点が県平均を上回った。

	国語	数学	英語	総合
伊江中	34.4	27.1	34.2	31.9
地区平均	35.1	24.2	33.3	30.9
県平均	36.4	24.6	33.2	31.6



外部指導者が指導することにより、より専門的な技術を身に付けることができた。

漢字検定・英語検定・数学検定等の試験で、積極的に上位の級にチャレンジするようになった。

勉強の仕方（暗記の仕方等）を学習することにより、能率よく学習することができるようになってきた。

教師側

いろいろな考え方・解き方をする生徒に対して、丁寧に助言や訂正する時間がもてるようになった。

生徒と教師とのコミュニケーションの機会が増えることにより、生徒のつまづきが即座に把握でき、生徒の実力に応じて教科書を進めることができた。

校内研修等の勉強会をすることにより、教員の意識も変わってきた。

伊江中学独自の教材を作成することにより、教員自身の資質も高まった。学習教材を工夫開発することにより、生徒は意欲的に学習するようになった。

教える順序を変えることにより、定期テストの平均点が上がった。

2. 今後の課題

今後の課題	次年度の方向性
<p>基礎クラスではつまづきが多く、思うように教科書が進まない。また、基礎クラスと応用クラスの学力差が徐々に拡大してきている。</p> <p>基礎クラスでは学習意欲の低い生徒が集中して集まり、「話を聞かない」、「集中力がない」など授業が進めにくい場合がある。</p> <p>基礎クラスでは、発展的な問題にあまり時間をかけられない。</p> <p>クラス別指導目標を設定する必要がある。</p> <p>教材開発が不十分である。</p> <p>授業で使用できるコンピュータソフトが少ない。</p> <p>観点別定期テストの作成、豆テスト・再テストの採点に時間がかかる。</p> <p>打ち合わせ等にかなりの時間を要する。</p> <p>定期テストを観点別に作成するには多少無理がある。</p> <p>数学検定試験の受験者が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伊江中学独自の問題集の作成 ・内容の精選 ・評価の工夫 ・教育相談等活用 ・教材の開発 ・教材の精選 ・クラス別指導目標を設定 ・教材の開発作成 ・コンピュータソフトの充実 ・定期テスト作成の工夫改善 ・打ち合わせ事項の精選 ・数学検定試験の模擬テストの実施

学力把握のための学校としての取組

調査名	調査の目的	実施内容	時期
定期テスト	教科書の内容が何割程度理解できているのか、指導方法が正しいかどうか判断する。全国における本校の位置確認をし、今後の方向性を考える 本校と全沖縄の平均点と比べることにより学力を客観的に判断し、現在行っている研究体制・方針が正しいかどうか判断する。 前回の授業の内容がしっかり理解できているかどうか確認し、次の単元に進んで良いか判断する。 生徒の意識を調査し、楽しく学習できているかどうか確認する。	教科書類似問題	5・7・10 ・11・2月 5月
標準学力テスト		中学2年対象	
達成度テスト		中学2年生対象	12月
豆テスト		前回の授業の復習	授業毎
アンケート		生徒の意識調査	各学期、 また必要に応じて 行う

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

地区学力向上実践発表会にて発表(9月9日)・村学力向上実践発表会にて発表(11月28日)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無